

文学部英文学科

「卒業論文」「卒業論文特殊研究」執筆・提出要領

目 次

文学部英文学科「卒業論文」BA Thesis 執筆・提出要領.....	3
文学部英文学科「卒業論文特殊研究」Advanced Thesis Research 予備登録・執筆・提出要領.....	5
卒業論文提出までの流れ.....	8
Guidelines for Writing and Submitting the BA Thesis	10
Guidelines for Advanced Thesis Research	12
Flow-Chart from Matriculation to Submission of the BA Thesis	15
【英米文学・文化系】 卒業論文 書式上の注意.....	17
【英語学・英語教育系】 卒業論文 書式上の注意.....	23
文献リストの書き方.....	24
フォーマット A-① 卒業論文（英文）書式.....	36
フォーマット A-② 卒業論文（和文）書式.....	39
フォーマット C-① 卒業論文計画書.....	42
フォーマット C-② 卒業論文特殊研究希望調査書.....	43
フォーマット D 執筆内容報告書・参考文献リスト.....	44
フォーマット E 卒業論文梗概.....	46

文学部英文学科

「卒業論文」 BA Thesis

執筆・提出要領

1. 「卒業論文」とは

「卒業論文」は英文学科を卒業するための卒業要件である。英文学科での学びの集大成として、各人が主体的に研究テーマを設定し、背景的知識の獲得・整理、論考・傍証を行い、学術論文を完成させる。卒業論文の構想、リサーチ、執筆は、3～4年次に受講する Junior Seminar、Senior Seminar での指導を通して行う。具体的な行程については「卒業論文提出までの流れ」を参照。

2. 執筆規定

- | | |
|-------------------|--|
| (1) 指導体制 | Junior Seminar 及び Senior Seminar を通じて指導する。
* 指導教員と計画的に進捗状況を確認しあい、指導を受ける。論文提出の際には、必ず指導教員の提出許可が必要となる。 |
| (2) 履修単位 | 8 単位 |
| (3) 執筆言語 | 英語 あるいは 日本語 |
| (4) 総語数 | 英文 3,000～4,000 words
和文 15,000～20,000 字
* タイトル、目次、参考文献リスト、図版資料は、本文に含まない。 |
| (5) 梗概 (abstract) | 本論文の執筆言語を問わず、英文 500words 程度の梗概を付すこと。 |
| (6) 書式設定 | 『英文学科ハンドブック』に定めたペーパー書式設定に準ずる。 |
| (7) 論文記載方法 | MLA あるいは APA 様式 (最新版) (指導教員の指示に従う) |
| (8) 表紙の体裁 | 執筆言語によってサンプル例に倣うこと |

【フォーマット A-①②】「卒業論文書式」参照

(9) 執筆に際しての注意

- 参考文献からの引用箇所、借用箇所を明示し、出典情報を記すこと。
- 剽窃・盗用が判明した場合には、不合格となる。
- 必要に応じて、注釈や図表を記してもよい。
- 必ず参考文献リストを記すこと。
- ワープロを使用すること。

3. 登録について

「卒業論文」の登録は卒業する予定の学期開講のクラスを登録すること。3月卒業の場合は秋学期の、9月卒業の場合は春学期のクラスを登録する。登録手続きは、卒業予定年次の春学期に「WEB 一般登録」

で行う。登録を行わなかった場合、卒業論文の提出、卒業見込証明書（就職活動時に必要）の発行ができないので注意すること。

4. 提出について

- (1) 提出日・時間 掲示で確認すること。
[12月頃（秋学期）または7月頃（春学期）を予定]
*指定された期間外での提出は、いかなる理由があっても一切認めない。
- (2) 提出方法 e-classの「卒業論文提出用サイト」の各クラス提出欄にアップロード
- (3) ファイル形式 PDF形式（表紙、梗概、目次、本文、参考文献すべてを1つのPDFファイルにすること）

5. 評価

卒業論文提出後、Senior Seminarにおいて合評会などを行い、研究成果を確認する。これらの結果を踏まえて、主査（指導教員）と副査（1名）が提出された卒業論文および梗概の査読を行い、論述内容、説得力、論理的構築と展開の整合性、表現力、規定分量や書式の適切さを評価する。

文学部英文学科

「卒業論文特殊研究」 Advanced Thesis Research

予備登録・執筆・提出要領

1. 「卒業論文特殊研究」とは

「卒業論文特殊研究」とは、必修科目の「卒業論文」で要求されるレベルよりもより専門性の高い卒業論文の執筆を希望する学生を対象とした選択科目である。履修希望者は、通常、3年次の秋学期に申請手続き（予備登録）を行い、許可された者は4年次に「卒業論文特殊研究」を登録する。「卒業論文特殊研究」で研究したいテーマあるいは作品は、履修者自らが決定する。希望者は、予備登録までに指導教員（原則的には Junior Seminar 担当者）に相談すること。具体的な行程については「卒業論文提出までの流れ」を参照。

2. 「卒業論文特殊研究」による卒業論文の執筆規定

- | | |
|------------------|--|
| (1) 指導体制 | 一年間に渡る指導教員の個別指導
* 指導教員と計画的に進捗状況を確認しあい、指導を受ける。
論文提出の際には、必ず指導教員の提出許可が必要となる。 |
| (2) 履修単位 | 4 単位（「卒業論文」8 単位とあわせて 12 単位を取得する。） |
| (3) 使用言語 | 英語 |
| (4) 総語数 | 6,000～7,500 words（本文のみ）
* タイトル、目次、参考文献リスト、図版資料は、本文に含まない。 |
| (5) 梗概（abstract） | 英文 500words 程度の梗概を付すこと。 |
| (6) 書式規定 | 『英文学科ハンドブック』に定めた英文ペーパー書式設定に準ずる。 |
| (7) 論文記載方法 | MLA あるいは APA 様式（最新版）（指導教員の指示に従う） |
| (8) 表紙の体裁 | サンプル例に倣うこと
【フォーマット A-①】「卒業論文書式」参照 |
| (9) 執筆に際しての注意 | a. 参考文献からの引用箇所、借用箇所を明示し、出典情報を記すこと。
b. 剽窃・盗用が判明した場合には、不合格となる。
c. 必要に応じて、注釈や図表を記してもよい。
d. 必ず参考文献リストを記すこと。
e. ワードプロを使用すること。 |

3. 「卒業論文特殊研究」の予備登録・登録について

- (1) 予備登録（前年度 11 月上旬）
 - ・ 予備登録までに研究したいテーマあるいは作品を決め、指導教員（原則的には Junior Seminar 担当者）に相談する。
 - ・ 「卒業論文特殊研究希望調査票」（執筆予定の英語タイトルと研究内容および研究計画〔日本語 400 字または英語 200 語程度〕）を教務センター（文学部）に提出する。

- ・ 「卒業論文特殊研究希望調査票」を学科会議で審議し、担当教員が決定。その後、履修予定者は、担当教員と面接の上、履修許可が出て、予備登録は完了。

(2) 予備登録に関する注意

- ・ 予備登録を完了していない者は本登録できないので、「卒業論文特殊研究」を履修する場合には、必ず予備登録をすること。
- ・ 許可された場合でも、登録の時点でその年度末に卒業する見込みが確定出来ない場合は登録できない。また、「卒業論文特殊研究」を登録する際には、必修科目の「卒業論文」も合わせて登録する必要がある。

(3) 登録

- ・ 「卒業論文特殊研究」の登録は卒業する予定の学期開講のクラスを登録する。3月卒業の場合は秋学期の、9月卒業の場合は春学期のクラスを登録する。登録手続きは、卒業予定年次の春学期に「WEB一般登録」で行う。

(4) 「卒業論文特殊研究」の取消に関して

- ・ 「卒業論文特殊研究」の履修を中止した場合や、指導教員から「卒業論文特殊研究」による卒業論文提出の許可が出ない場合は、「卒業論文特殊研究」のみ登録取消となる。
- ・ 「卒業論文特殊研究」の取消は、必修科目の「卒業論文」とは無関係であるため、「卒業論文特殊研究」の登録の取消をしても、必修科目の「卒業論文」を提出し、合格点以上の成績を収めれば、卒業要件は満たされる。

4. 「卒業論文特殊研究」による卒業論文の提出

- | | |
|------------|---|
| (1) 提出日・時間 | <p>掲示で確認すること。</p> <p>[12月頃（秋学期）または7月頃（春学期）を予定]</p> <p>*指定された期間外での提出は、いかなる理由があっても一切認めない。</p> |
| (2) 提出方法 | e-classの「卒業論文特殊研究提出用サイト」の各クラス提出欄にアップロード |
| (3) ファイル形式 | PDF形式（表紙、梗概、目次、本文、参考文献すべてを1つのPDFファイルにすること） |
| (4) その他の注意 | *提出した論文のコピー1部を自分で保管し、口頭試問の際に持参すること。 |

5. 口頭試問と評価

「卒業論文特殊研究」を経て卒業論文を提出した後、1月に口頭試問を受けなければならない。口頭試問の審査者は、主査（担当教員）と副査（2名）からなる。卒業論文提出者と、およそ30分間、論文について議論し、その後、上記3名の審査者により成績評価が出される。なお、口頭試問の日時等の詳細については、後日、掲示する。

6. その他の注意

- (1) 大学院進学を考えている人は「卒業論文特殊研究」による卒業論文を書くことが望ましい。
- (2) 特別入学制度で本学大学院に進学することを希望する場合は、「卒業論文特殊研究」を履修することが要件となっている。
- (3) 「卒業論文特殊研究」と「卒業論文」は同じ科目ではない。「卒業論文特殊研究」を登録する際には、必修科目の「卒業論文」を同時に登録する必要がある。提出する論文はひとつでよい。
- (4) 「卒業論文特殊研究」による卒業論文執筆は、計画的かつ着実に取り組む必要がある。

卒業論文提出までの流れ

「卒業論文」、または「卒業論文特殊研究」による卒業論文を提出するまでには、以下の過程を経ていなければならない。指導教員との密接な連絡を図り、指導を通して、研究・執筆を進めることが求められる。以下に、4年次の秋学期に提出することを想定して進捗を示す。

学期		「卒業論文」	「卒業論文特殊研究」
1 年次	春		
	秋	<ul style="list-style-type: none"> 「基礎演習」予備登録 (10月) 	
2 年次	春	* 基礎演習 I・II で期末レポート (和文 2000 字程度 または英文 700 words 程度) を作成。論文の書き方を学びます。	
	秋	<ul style="list-style-type: none"> 「Junior Seminar」予備登録 (10月) 	どのようなテーマで卒業論文を書きたいかを考えて、「Junior Seminar」の予備登録をしましょう。
3 年次	春	* Junior Seminar I で期末レポート (英文 1500 words 程度) を作成。論文の書き方を学びます。	
	秋	<ul style="list-style-type: none"> 執筆予定タイトルと研究計画を提出する。 (秋学期末) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">【フォーマット C-①】「卒業論文計画書」参照</div>	<ul style="list-style-type: none"> 予備登録 (11月頃) : 執筆予定タイトルと研究計画を提出する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">【フォーマット C-②】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">「卒業論文特殊研究希望調査書」参照</div>
		* Junior Seminar II で期末レポート (英文 1500 words 程度) を作成。論文の書き方を学びます。	

学期	「卒業論文」	「卒業論文特殊研究」
4 年 次	春 <ul style="list-style-type: none"> 登録期間中に「卒業論文」(秋学期)を一般登録する。 アウトライン構想および参考文献一覧を提出する。 	春 <ul style="list-style-type: none"> 登録期間中に「卒業論文」および「卒業論文特殊研究」(秋学期)を一般登録する。 アウトライン構想および参考文献一覧を提出する。
	<p>【フォーマットD】「卒業論文執筆内容報告書・参考文献リスト」参照</p> <p>* Senior Seminar Iで期末レポート(英文1500 words程度)を作成。論文の書き方を学びます。</p>	
	秋 <ul style="list-style-type: none"> 卒業論文経過報告会 執筆タイトルと梗概を提出する。(10月頃) 卒業論文提出(12月頃) 合評会(1月) 	秋 <ul style="list-style-type: none"> 執筆タイトルと梗概を提出する。(10月頃) 卒業論文提出(12月頃) 口頭試問(1月末)
	春 <p>《9月卒業予定者のみ》</p> <ul style="list-style-type: none"> 登録期間中に「卒業論文」(春学期)を一般登録する。 卒業論文提出(7月頃) 	春 <p>《9月卒業予定者のみ》</p> <ul style="list-style-type: none"> 登録期間中に「卒業論文」および「卒業論文特殊研究」(春学期)を一般登録する。 卒業論文提出(7月頃)

Guidelines for Writing and Submitting the BA Thesis

1. The nature of the BA thesis

The BA thesis is a compulsory requirement for all graduating students, representing the conclusion of their four years of study. Students should choose an appropriate theme, undertake research, and produce a well-organised piece of writing to satisfy the requirements of a BA thesis. Work towards this will be conducted through the third and fourth years, in Junior and Senior Seminar, in cooperation with the student's seminar teacher. Details of the progression toward a BA thesis are set out in the flow-chart.

2. Regulations

- | | |
|--|---|
| (1) Method of instruction | As noted above, students will write their thesis under the supervision of their Junior and Senior Seminar teacher. The finished thesis can be submitted only with the teacher's permission. |
| (2) No. of credits | 8 credits |
| (3) Language | English or Japanese |
| (4) Length | 3,000–4,000 words (English); 15,000– 20,000 characters (Japanese)
* Note: these lengths refer to text and notes only. The title, bibliography and any captions to tables or illustrations are not included in these totals. |
| (5) Abstract | Whatever language the BA thesis is written in, a 500–word abstract in English must accompany it. |
| (6) Format | Students should follow the guidelines in the English Department Handbook. |
| (7) Referencing | Referencing should, in principle, follow the latest version of the MLA or APA guide unless the teacher instructs otherwise. |
| (8) Cover page /
Abstract/Table of Contents | Refer to the supplied examples for formatting (forms A-① ②). |
| (9) Additional notes | a. Students must clearly distinguish quoted material from their own writing, linking it to their bibliography.
b. Any plagiarism is considered completely unacceptable and will lead to failure.
c. If necessary, illustrations or notes may be used.
d. A list of works cited must be supplied.
e. The thesis must be typed. |

3. Registration of the thesis

Students should register their intention to submit their thesis in the general class registration period. In this sense, the thesis is considered a class that must be registered for. This should be done online at the beginning of the year in which they intend to graduate, though the thesis will be listed as a Fall semester class (for students graduating in the Fall semester).

Students who fail to register to submit a thesis will not be able to submit it at the appropriate time and as a consequence will not be able to obtain the official document stating their ability to graduate in that academic year (the *sotsugyo-mikomi-shomeisho*).

4. Submission

- | | |
|-------------------|--|
| (1) Date and time | Students should make sure they know the date and time when they need to submit their BA thesis. This will be announced well in advance.
* No exceptions can be made: the thesis must be submitted at the proper time. |
| (2) How to submit | Please submit your thesis to the designated site of e-class. |
| (3) File format | PDF (Please unify the cover page, the abstract, the table of contents, the body texts, the works cited/the references into a single PDF file.) |

5. Evaluation

After submission, each senior student will make an oral presentation on their thesis topic in their seminar. The student's seminar teacher and the sub-advisor will then assess the academic value of the thesis, judge whether it satisfies all the submission criteria, and finally agree on a grade.

Guidelines for Advanced Thesis Research

1. The nature of Advanced Thesis Research

Advanced Thesis Research is an elective class for ambitious students wishing to undertake higher level, more specialised research. Students wishing to apply for this must make their application in the Fall semester of their Junior year. If their application is successful, they can register for Advanced Thesis Research in the Spring registration period. The theme or research field can be determined by the student in consultation with the Junior Seminar teacher. For the process, see the flow chart.

2. Regulations

- | | |
|--|---|
| (1) Method of instruction | Students will normally write their thesis under the supervision of their Junior and Senior Seminar teacher. They will be taught in tutorials during the Senior year. The finished thesis can be submitted only with the seminar teacher's permission. |
| (2) No. of credits | 4 credits (in addition to the 8 credits awarded any BA Thesis, so 12 credits in all) |
| (3) Language | English |
| (4) Length | 6,000–7,500 words
* Note: this length refers to text and notes only. The title, bibliography and any captions to tables or illustrations are not included in the total. |
| (5) Abstract | The thesis must be accompanied by a 500–word abstract. |
| (6) Format | Students should follow the guidelines in the English Department Handbook. |
| (7) Referencing | Referencing should, in principle, follow the latest version of the MLA or APA guide unless the teacher instructs otherwise. |
| (8) Cover page /
Abstract/Table of Contents | Refer to the supplied examples for formatting (form A-①). |
| (9) Additional notes | a. Students must clearly distinguish quoted material from their own writing, linking it to their bibliography.
b. Any plagiarism is considered completely unacceptable and will lead to failure.
c. If necessary, illustrations or notes may be used.
d. A list of works cited must be supplied.
e. The thesis must be typed. |

3. Preliminary Registration for Advanced Thesis Research

- (1) Application (early November, Junior year)
 - Before applying, students should choose a topic or theme in consultation with their seminar teacher.

- Students should complete the relevant application form in English or Japanese (200 words in English; 400 characters in Japanese). This must be submitted to the Faculty of Letters office.
 - After submission, the English Department will decide who should be the supervisor (normally the seminar teacher) and whether the research proposal is acceptable.
- (2) Precautionary notes concerning preliminary registration
- Students who have not completed preliminary registration will be unable to register for Advanced Thesis Research in their Senior year.
 - Students admitted to the Advanced Thesis Research program may still be unable to register for it in the Spring semester of their fourth year if they are unable to graduate in that year.
- (3) Rules for registration
- Students will register for Advanced Thesis Research in the Spring registration period of the year in which they intend to graduate, following the standard registration procedure.
- (4) Cancellation of Advanced Thesis Research
- If a student abandons their course of study, or their supervisor judges their work unsuitable for Advanced Thesis Research, the class will be cancelled.
 - Students who have had their Advanced Thesis Research cancelled will still need to write a standard BA Thesis and obtain credits for it in order to graduate.

4. Submission of the Advanced Thesis

- | | |
|-------------------|--|
| (1) Date and time | Students should make sure they know the date and time when they need to submit their Advanced Thesis. This will be announced well in advance.
* No exceptions can be made: the thesis must be submitted at the proper time. |
| (2) How to submit | Please submit your thesis to the designated site of e-class. |
| (3) File format | PDF (Please unify the cover page, the abstract, the table of contents, the body texts, the works cited/the references into a single PDF file.) |
| (4) Other notes | Students should bring their own copy of their thesis to their Oral Examination. |

5. Oral Examination and Evaluation

After the submission of the Advanced Thesis, there will be an oral interview (defense) in January. The examiners will consist of the student's supervisor and two other readers selected from the

English Department. The Oral Examination will last approximately 30 minutes and consist of questions and discussion. Afterwards, the examiners will agree on a grade.

6. Further Notes

- (1) For students intending to enter the Graduate School, it is preferable to write an Advanced Thesis.
- (2) For students intending to enter the Graduate school via the special entrance exam, it is essential to write an Advanced Thesis.
- (3) The Advanced Thesis Research and the regular BA Thesis are not the same class, so when registering for Advanced Thesis Research students must also register for the regular BA Thesis. However, students will only write one thesis.
- (4) Students attempting the Advanced Thesis Research must be prepared to work steadily and with a proper plan.

Flow-Chart from Matriculation to Submission of the BA Thesis

You must follow this process prior to submitting your BA Thesis. This should be done under the close supervision of your seminar teacher. The main chart here is for students intending to graduate in the Fall semester.

学期		BA Thesis	Advanced Thesis Research
1 年 次	春		
	秋	<ul style="list-style-type: none"> Register for Basic Seminar (October) 	
2 年 次	春	<p>Learn how to write an academic paper. * In both semesters, write a final term paper in English or Japanese (700 words / 2000 characters).</p>	
	秋	<ul style="list-style-type: none"> Register for Junior Seminar (October) 	<p>When you choose your Junior Seminar, consider the sort of subject you'd like to work on for your BA Thesis!</p>
3 年 次	春	<p>Learn how to write an academic paper in English. * Junior Seminar I: Write a 1500-word paper in English.</p>	<ul style="list-style-type: none"> The head of the English Department will explain how to register for the Advanced Thesis (June).
	秋	<ul style="list-style-type: none"> Submit a proposed title and plan for your BA Thesis at the end of the semester (this can be changed later). Use form C-① <p>* Junior Seminar II: Write a 1500-word paper in English.</p>	<ul style="list-style-type: none"> Register a title and plan for your Advanced Thesis (November). This can be changed later. Use form C-②

学期		BA Thesis	Advanced Thesis Research
4 年 次	春	<ul style="list-style-type: none"> • <u>In the registration period, register your BA Thesis for the Fall semester.</u> • Submit an outline of your thesis with a bibliography. Use form D <p style="text-align: center;">* Senior Seminar I: Write a 1500-word paper in English.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • <u>In the registration period, register for both the BA Thesis AND the Advanced Thesis Research for the Fall semester.</u> • Submit an outline of your thesis with a bibliography. Use form D
	秋	<ul style="list-style-type: none"> • Discuss your progress on your thesis with your supervisor as well as in class. • Submit an abstract with a finalized title (October). Use form E • Submit your thesis (December). • Presentation and discussion (January). 	<ul style="list-style-type: none"> • Discuss your progress on your thesis with your supervisor. • Submit an abstract with a finalized title (October). Use form E • Submit your thesis (December). • Oral interview (January).
	春	<p>For students graduating in September:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Register your BA Thesis in the Spring semester in which you graduate. • Submit your thesis (July). 	<p>For students graduating in September:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Register your Advanced Thesis and Advanced Thesis Research in the Spring semester in which you graduate. • Submit your thesis (July).

英米文学・文化系

卒業論文 書式上の注意

英米文学・文化研究に関わる卒業論文は、以下の注意事項にしたがって書式を整えてください。

① 総語数： 英文 3,000～4,000 words

和文 15,000～20,000 字

* タイトル、目次、参考文献リスト、図版資料は、本文に含まない。

② 梗概 (abstract)： 本論文の執筆言語を問わず、英文 500words 程度の梗概を付すこと。

③ ページ設定

	英文	和文
用紙	A4	A4
上下余白	25mm (or 1 inch)	25mm (or 1 inch)
左右余白	25mm (or 1 inch)	25mm (or 1 inch)
行数 / 頁	28 行	30 行
字数 / 頁	(行数のみ指定)	40 字
フォント	12	12
字体	Century	MS 明朝

* Microsoft Word で設定

④ その他

【英文】書式の細部については MLA (最新版) にしたがう。

【和文】

- [1] 外国の人名、地名、書名等は、少なくとも初出の箇所で原名を書く。
- [2] 数字は半角の数字を使用すること。
- [3] 註は原稿の末尾にまとめてつけること。
- [4] 引用文は原則として和訳をつけないこと。
- [5] その他、書式の細部については MLA (最新版) にしたがう。

②

1. はじめに

④

⑤

③ Mary Shelley (1797-1851) の *Frankenstein, or the Modern Prometheus* ⁽¹⁾ はイギリス・ロマン主義期を代表するゴシック小説である。1818年に初版された当時、この作品は厳しい批判を受けた。それは主に、夫 Percy Bysshe Shelley (1792-1822)や父 William Godwin (1756-1836)による無神論や無政府主義的な政治・哲学思想の影響が、この作品の背後にあると考えられたからである。しかし、P.B. Shelley が急逝した翌年の1822年に再版されると、読者たちは、この作品が当時わずか19歳の若い女性によって書き始められたものであることに驚くとともに、Shelley を一人の独立した作家として見直し、評価していきようになる。Shelley の生立ちのみならず、彼女が夫とともに亡命中の詩人 George Gordon Byron (1788-1824) を Genève に訪ね、そこでの文学談義に啓発されてこの作品を書き始めたという経緯を考えれば、*Frankenstein* という作品を、これらの詩人や思想家たちによって彼女に与えられた影響の結実ととらえて間違いはない。だが、むしろ注目すべきは、Shelley が作品を通じて、イギリス・ロマン主義期を代表する詩作品を数多く引用し、その物語の中に埋め込むことで、ロマン主義の詩的伝統を問い直し、自らの詩論を展開しようと試みている点である。^⑥ *Frankenstein* を Shelley の最高傑作と讃えて Muriel Spark が “perhaps the wonder of it exists, not despite Mary’s youth, but because of it” (154) と述べるように、本作品は Shelley によるロマン主義的伝統の受容の軌跡を問う上で重要な作品である。

④

特に本論では作品中に繰り返し用いられる Samuel Taylor Coleridge (1772-1834) の “The Rime of the Ancient Mariner” による詩的イメージに注目する。Coleridge は前期ロマン主義に数えられる詩人であり、初期にはフランス革命を支持する Godwin の政治思想に共感し、親交を深めた時期があった。しかし、次第にその過激な理性主義に疑問を抱いてドイツ観念論へと傾倒していき、William Wordsworth (1770-1850) とともにイギリス・ロマン主義の声明書となる *Lyrical Ballads* (1798) を出版する。“Ancient Mariner” は *Lyrical Ballads* の巻頭を飾る作品であり、その後のロマン派詩人たちの詩想に多大な影響を与えた。本論では、*Frankenstein* において “Ancient Mariner” の詩的イメージがいかに用いられているのか、特に、この二つの作品における語りがいかなる構造を持ち、互いに関連しつつ、どのように機能しているのかを分析する。本論ではこれらの考察を通じて、Mary Shelley が人間理性の限界と超自然という近代イギリス文化の問題をいかにとらえ、また、一人の女性としてイギリス・ロマン主義という伝統といかに向き合ったのかを明ら

かにすることを目的とする。

2. 贖罪としての語り——“The Rime of the Ancient Mariner”において

Frankenstein において“Ancient Mariner”が最初に言及されるのは、物語の冒頭に添えられた書簡、北極探検へと向かう船長 Robert Walton が、彼の身を案じる姉にあてた書簡においてである。

- ⑥ I cannot describe to you my sensations on the near prospect of my undertaking... I am going to unexplored regions to “the land of mist and snow”; but I shall kill no albatross, therefore do not be alarmed for my safety, or if I should come back to you as worn and woeful as the “Ancient Mariner.” You will smile at my allusion; but I will disclose a secret. I have often attributed my attachment to, my passionate enthusiasm for, the dangerous mysteries of ocean, to that production of the most imaginative of modern poets. (21-22)

Walton は北極を、“Ancient Mariner”の詩に描かれるような “the land of mist and snow” ではなく、“the region of beauty and delight”(15)であると信じ、自らの探検を自然の神秘を解明しようという情熱に基づくものであり、罪深い老水夫の航海とは異なることを印象

⑤ 註

- (1) 1818年の初版出版の後、Shelley は *Frankenstein* を 1822年と 1831年に再版している。本論においては、1831年版を用いて考察する。
- (2) Cf. *Biographia Literaria*, 2:5-6 : *Lyrical Ballads* は超自然と自然を描いた二種類の詩作品によって構成されており、Coleridge は特に前者、超自然を主題とした作品を書くことを目的として “Ancient Mariner” を構想したと述べている。
- (3) Shelley の生母 Mary Wollstonecraft (1759-97) もまた、哲学的対話の形式を用いた小説 *Maria, or the Wrongs of Woman* を執筆している。Wollstonecraft が Shelley を出産した後、産褥熱が原因で死亡したため、Godwin の手によって 1798年に未完のまま

ま出版された。

⑦ 参考文献

Chandler, James, editor. *The Cambridge History of English Romantic Literature*. Cambridge UP, 2009.

Coleridge, Samuel Taylor. *Biographia Literaria, or Biographical Sketches of My Literary Life and Opinions*. Edited by James Engell and W. Jackson Bate. Princeton UP, 1983.

---. *Coleridge's Poetry and Prose*. Edited by Nicholas Halmi, Paul Magnuson and Raimonda Modiano. Norton, 2004.

---. "The Rime of the Ancient Mariner." *Poetry for Students: Presenting Analysis, Context, and Criticism on Commonly Studied Poetry*, edited by Mary Ruby, vol. 4, Gale, 1999, pp. 125-159. *Gale Virtual Reference Library*, go.galegroup.com/ps/i.do?p=GVRL&sw=w&u=jpdubs&v=2.1&id=GALE%7CCX2691200022&it=r&asid=79649aa4c9b51d03a76b1c8d2af92cf7. Accessed 11 May 2017.

Ferber, Michael. *The Cambridge Introduction to British Romantic Poetry*. Cambridge UP, 2012.

Mellor, Anne K. "Making a 'Monster': An Introduction to *Frankenstein*." *The Cambridge Companion to Mary Shelley*. Edited by Esther Schor. Cambridge UP, 2003, pp. 9-25.

Shelley, Mary. *Frankenstein, or the Modern Prometheus*. Edited by Maurice Hindle. Penguin Books, 1992.

Spark, Muriel. *Mary Shelley*. Constable, 1988.

廣野由美子『批評理論入門—「フランケンシュタイン」解剖講義』、中公新書、2009年。

- ① ページ番号： ページの右肩に「氏名」と「ページ番号」を記載する。
- ② 見出し： 各セクションの冒頭に「見出し」をつける。
- ③ 段落： 各段落の始まりは一字下げる。
- ④ 書名の表記：

【洋書】

- ・ 書籍、新聞、雑誌等のタイトルは *Italic* (斜体)にする。
例： *Frankenstein, or the Modern Prometheus*
- ・ 短編集の中の短編名、論文名、詩の題名等は “ ”で囲む。
例： “The Rime of the Ancient Mariner”

【和書】

- ・ 書籍、新聞、雑誌等のタイトルは『 』で囲む。
例： 『批評理論入門——「フランケンシュタイン」解剖講義』
* 書籍名中に用いられた他の書籍名は「 」で囲む。
- ・ 短編集の中の短編名、論文名、詩の題名等は「 」で囲む。
例： 「老水夫行」（詩の題名）
「ロマン派詩人と『フランケンシュタイン』」（論文名）

- ⑤ 註： 補足的な説明、参考書の紹介、引用の出典を明記する必要がある場合に、註を添える。註をつける語句の最後に番号をつけ、本文の末尾に内容を記載する。

- ⑥ 引用：

【短い引用】 散文の引用が4行以下、韻文の引用が3行以下の場合は、その引用を引用符“ ”（和文の場合は「 」）で囲み、本文中に組み入れる。末尾に出典を明記すること。

例（散文の場合）：

Muriel Spark が “perhaps the wonder of it exists, not despite Mary’s youth, but because of it” (154)と述べるように...

- * () 内の数字は、ページ数を記載する。

例（韻文の場合）：

“Like one, on a lonesome road who, / Doth walk in fear and dread” (447-48)と、自らの罪深さに失意し恐怖を抱いた老水夫は...

- * 詩の引用において、詩行を分かつには斜線 (/)を用いて、その前後に1字分スペースを空ける。
- * () 内の数字は、詩の行数を記載する。

【長い引用】 散文の引用が5行以上、韻文の引用が4行以上であれば、改行して始める。原則として、各行は左余白から1インチ (25mm) 字下げする。原典にない引用符は加えない。

例 (散文の場合) :

... 船長 Robert Walton が、彼の身を案じる姉にあてた書簡においてである。

I cannot describe to you my sensations on the near prospect of my undertaking. . . . I am going to unexplored regions to “the land of mist and snow”; but I shall kill no albatross, therefore do not be alarmed for my safety, or if I should come back to you as worn and woeful as the “Ancient Mariner.” You will smile at my allusion; but I will disclose a secret. I have often attributed my attachment to, my passionate enthusiasm for, the dangerous mysteries of ocean, to that production of the most imaginative of modern poets. (21-22)

* 文中での省略を表すには、前後および間にスペースを空けてピリオドを3つ使用する。省略箇所が文末であれば、その分のピリオドに続けてスペースを空けながらピリオドを3つ使用する。

例 (韻文の場合) :

... Frankenstein の姿は、自らの罪深さに失意し恐怖する老水夫の姿に呼応する。

Like one, on a lonesome road who,
Doth walk in fear and dread,
And, having once turned round, walks on,
And turns no more his head;
Because he knows a frightful fiend
Doth close behind him tread. (447-52)

* 引用は正しく用いられれば、議論をより効果的にすることができます。そのためにも、引用は正確、かつ簡潔に用いましょう。また、収集した資料や文献は、剽窃・盗用を犯すことなく適切に扱う必要があります。詳しくは『英文学科ハンドブック』の「剽窃 (plagiarism) とは何か」を熟読してください。

⑦ 参考文献： 本論と註の後に、論文で引用・参照した文献一覧を添える。

* 文献リストの作成については、『英文学科ハンドブック』の「文献リストの書き方」、より詳しくは MLA (最新版) を確認してください。

英語学・英語教育系

卒業論文 書式上の注意

英語学・英語教育に関わる卒業論文は、以下の注意事項にしたがって書式を整えてください。

- ① 総語数： 英文 3,000～4,000 words
和文 15,000～20,000 字
* タイトル、目次、参考文献リスト、図版資料は、本文に含まない。
- ② 梗概 (abstract)： 本論文の執筆言語を問わず、英文 500words 程度の梗概を付すこと。
- ③ ページ設定

	英文	和文
用紙	A4	A4
上下余白	25mm (or 1 inch)	25mm (or 1 inch)
左右余白	25mm (or 1 inch)	25mm (or 1 inch)
行数 / 頁	28 行	30 行
字数 / 頁	(行数のみ指定)	40 字
フォント	12	12
字体	Times New Romanが推奨される	MS 明朝

* Microsoft Word で設定

- ④ その他
【英文】書式の細部についてはAPA（最新版）にしたがう。

【和文】

- [1] 外国の人名、地名、書名等は、少なくとも初出の箇所で原名を書く。
- [2] 数字は半角の数字を使用すること。
- [3] 註は原稿の末尾にまとめてつけること。
- [4] 引用文は原則として和訳をつけないこと。
- [5] その他、書式の細部についてはAPA（最新版）にしたがう。

● 文献リストの書き方

レポート・論文の仮のテーマが決まったら、まずは情報収集をします。そして様々な資料を読んでテーマを絞り込んだり明確化したりしながら、書く内容をふくらませていきます。その過程で自分が見つけた情報源は、再度探し出せるように必要項目を控えることが大切です（必要項目については以下を参照）。文献一覧として出来上がったレポート・論文の末尾につけることになるからです。

この文献一覧の形式や、後でとりあげる借用の仕方などには、決まった書式があります。人文学の分野でMLA方式（Modern Language Associationで定めている方式）が主として広く用いられており、行動科学や社会科学の分野ではAPA方式（American Psychological Associationで定めている方式）が使われています。英米文学・文化に関してペーパーを書く場合はMLA方式、英語学・英語教育学に関して書く場合はAPA方式を使うとよいでしょう。MLAもAPAもどちらも英文ペーパーの書式ですが、和文ペーパーの場合も基本的にこれらの書式に準拠する形をとることが推奨されます。また、各科目や授業において、どの書式を採用するか担当教員から指示がありますから、必ず担当教員の指示に従ってください。さらに学会や雑誌で個別に書式を定めている場合もあり、文献一覧の書式は一様ではないということも認識しておいてください。

MLA方式の文献一覧には、Works Consulted（参考文献）とWorks Cited（引用文献）の区別があります。引用はしていないが参考にはした資料も含むリストであれば、Works Consulted とし、引用した文献のみのリストであれば Works Cited とします。発表の形式や形態によってどちらかを決めましょう。例えば、英文の口頭発表用ハンドアウトであれば Works Consulted、英文のレポート・論文の場合は Works Cited とするのが適当でしょう。和文の場合もこのMLA方式に準拠し、口頭発表ハンドアウトは「参考文献」、レポート・論文の場合は「引用文献」とするのがよいでしょう。APA方式の文献一覧は英文の場合はReferencesという見出しをつけ、和文の場合は「参考文献」と見出しをつけます。APA方式では、このReferences（参考文献）に掲載する資料は本文内で引用・借用したものだけに限られます。

いずれの書式を採用するにしろ、文献一覧には、少なくとも著者名、書名、出版社、出版年を明記します。これらの情報は、和書なら巻末に、洋書なら巻頭部分（表面には書名、著者名、出版社名、裏面にはより詳しい情報が掲載されているページ）にありますから、コピーしておきましょう。その他、版を控えておくことが必要な場合もあります。著者、書名、出版社などが同じでも、内容に重要な変更を加えた場合は、版を改めて刷るのが普通です。

以下では、MLA方式に準拠する和書の書式とMLA方式の英文の書式、さらにAPA方式に準拠する和書の書式とAPA方式の英文の書式をそれぞれ紹介します。

1. 和文ペーパーにおける和書の記載法（MLA方式に準拠）

➤ 単行本

書式：著者『書名』、出版社、出版年。

例：

後藤和彦『敗北と文学—アメリカ南部と近代日本』、松柏社、2005年。

（タイトルとサブタイトルとは— [ダッシュ] でわかる。）

茂木健一郎『脳と仮想』、新潮社、2007年、新潮文庫。

（シリーズ名、叢書名などを記入する必要があることもある。）

川北稔、指昭博編『周縁からのまなざし—もうひとつのイギリス近代』、山川出版社、2000年。

（著者が2人の場合、原則として全著者名を読点（、）で区切って記すが、紙面の規制がある場合、または著者が3人以上の場合は、先頭の著者1名を記載し「等」を付す。）

➤ 翻訳書

書式：原著者『書名』、翻訳者、出版社、出版年。

例：

ジバルディ、ジョゼフ『MLA英語論文の手引き』、樋口昌幸訳編、第6版、北星堂、2005年。

（欧文原著者名は、姓、名の順に書き、その間を読点（、）で区切る。この例の場合、樋口氏が訳者兼編者である。）

ストーン、ローレンス『家族・性・結婚の社会史—1500～1800年のイギリス』、北本正章訳、勁草書房、1991年。

➤ 雑誌論文・記事、論文集の一論文など

書式：著者「論文名・記事タイトル」、『雑誌名』巻次、掲載頁。

著者「論文名」、編者『書名』、出版社、出版年、掲載頁。

例：

山田昌弘「近代家族形成における情緒の二つの意味」、『現代社会学』24号（1987年）、110-132頁。

江原由美子「日常生活とジェンダー」、江原由美子他編著『ジェンダーの社会学』、新曜社、1989年、1-54頁。

➤ 百科事典の記事や辞書の項目

書式：「項目名」、『事典・辞書名』、版、出版社、出版年。

項目執筆者がわかっている場合は：執筆者名「項目名」、『事典名』、版、出版社、出版年。

例：

「ロマン主義」、『日本国語大辞典』、第二版、小学館、2002年。

出口保夫「住居と建造物」、安東伸介・小池滋・出口保夫・船戸英夫編『イギリスの生活と文化事典』、研究社、1982年、117-151頁。

➤ **新聞記事**

書式：著者「記事タイトル」、『新聞名』、朝・夕刊、版、発行日、発行地：発行機関、面。
(ここで「版」というのは、制作地により付された番号で、大阪制作なら11版や13版になる。)

例：

矢野英基「やせ細った森—不正の温床に」、『朝日新聞』、朝刊、13版、2008年1月6日、
大阪：朝日新聞社、5面。

➤ **ウェブ上の文書**

書式：著者「文書名」、『サイト名』、サイトの主催機関名、発行日、URL。(閲覧年月日)。

例：

松岡正剛「583夜 夏目漱石『草枕』」、『松岡正剛の千夜千冊』、編集工学研究所、
2002年7月18日、1000ya.isis.ne.jp/0583.html。(2016年12月25日)。

以上の例に挙げた文献をまとめてリストにすると、次のようになります。レポート・論文の末尾に、頁を改めて記載します。以下の例にはありませんが、文学のペーパーを書く場合なら、分析対象となる作品もこのリストに含めます。掲載順には著者名の五十音順、アルファベット順、出版年順がありますが、ここではアルファベット順にしておきます。

引用文献(あるいは参考文献)

出口保夫「住居と建造物」、安東伸介・小池滋・出口保夫・船戸英夫編『イギリスの生活と文化事典』、研究社、1982年、117-151頁。

江原由美子「日常生活とジェンダー」、江原由美子他編著『ジェンダーの社会学』、新曜社、1989年、1-54頁。

後藤和彦『敗北と文学—アメリカ南部と近代日本』、松柏社、2005年。

ジバルディ、ジョゼフ『MLA英語論文の手引き』、樋口昌幸訳編、第6版、北星堂、2005年。

川北稔、指昭博編『周縁からのまなざし—もうひとつのイギリス近代』、山川出版社、2000年。

松岡正剛「583夜 夏目漱石『草枕』」、『松岡正剛の千夜千冊』、編集工学研究所、2002年7月18日、1000ya.isis.ne.jp/0583.html。(2016年12月25日)。

茂木健一郎『脳と仮想』、新潮文庫、新潮社、2007年。

「ロマン主義」、『日本国語大辞典』、第二版、小学館、2002年。

ストーン、ローレンス『家族・性・結婚の社会史—1500～1800年のイギリス』、北本正章訳、勁草書房、1991年。

山田昌弘「近代家族形成における情緒の二つの意味」、『現代社会学』24号(1987年)、110-132頁。

矢野英基「やせ細った森—不正の温床に」、『朝日新聞』、朝刊、13版、2008年1月6日、大阪：朝日新聞社、5面。

[注記] 和文ペーパー作成のために和書と洋書の両方を参考にした場合、引用文献リストでは洋書をMLAあるいはAPA方式でアルファベット順に記載したあとに、和書を挙げればよいでしょう。

2. 英文ペーパーにおける記載法 (MLA方式)

I. 印刷出版物に関する記載

➤ 単行本

書式：著者・編者. 書名. 出版社, 出版年.

例：

Townsend, Robert M. *The Medieval Village Economy*. Princeton UP, 1993.

(著者名は姓の次にコンマを打って名を記す。また、UPはUniversity Press、つまり大学出版局のこと。)

McRae, Murdo William, editor. *The Literature of Science: Perspectives on Popular Science Writing*. U of Georgia P, 1993.

(UとPは上と同じ。タイトルとサブタイトルとの間は：[コロン] でわかる。)

➤ 雑誌論文・記事、論文集の一論文、詩集の中の一つの詩など

書式：著者. “論文名・記事タイトル.” 雑誌名 巻次 (出版年) : 掲載頁.

著者・作者. “論文名・詩や短編小説のタイトル.” 書名, edited by 編者. 出版社, 出版年. 掲載頁.

例：

White, Sabina, and Andrew Winzelberg. “Laughter and Stress.” *Humor*, vol. 5, no. 4, 1992, pp. 343-55.

(雑誌論文・記事の場合、このように著者が2人いるときは、最初だけ姓、名の順にして、あとは名と姓を記す。著者が3人以上いるときは、最初だけ姓、名を記し、あとはet al.と記す。たとえば、Burdick, Anne, et al.とする。)

Lennon, John. “The Fat Brudgie.” *The Norton Book of Light Verse*, edited by Russell Baker, Norton, 1986, pp. 357-58.

(論文集の中の一論文や詩集の中の一つの詩の場合、Edited byの後に、編者を名、姓の順に記す。)

➤ 百科事典の記事や辞書の項目

書式：“項目名.” 事典・辞書名. 版. 出版年.

項目執筆者がわかっている場合は執筆者名を姓、名の順にして項目名の前におく。

例：

Le Patourel, John. “Normans and Normandy.” *Dictionary of the Middle Ages*, edited by Joseph R. Strayer, vol. 9, Scribner’s, 1987.

“Nature.” *The Oxford English Dictionary*. 2nd ed. Oxford UP, 1989.

➤ **新聞記事**

書式：著者. “記事タイトル.” *新聞名* 発行日, 版: 掲載頁.

例：

Markoff, John. “The Voice on the Phone Is Not Human, but It’s Helpful.” *New York Times*
21 June 1998, late ed.: F1+.

➤ **洋書の翻訳**

書式：翻訳書の記載は、洋書の記載に準じます。

例：先に挙げたローレンス・ストーン『家族・性・結婚の社会史—1500～1800年のイギリス』という翻訳書を英文ペーパーの文献リストに記載したいときは、次のようにするとよいでしょう。

Stone, Lawrence. *The Family, Sex, and Marriage in England, 1500-1800*. Translated by Masaaki Kitamoto. Keiso Shobo, 1991.

あるいは、翻訳や翻訳書がメインの場合は、

Kitamono, Masaaki, translator. *The Family, Sex, and Marriage in England, 1500-1800*. By Lawrence Stone. Keiso Shobo, 1991.

➤ **和書**

書式：洋書の翻訳書と同じく、洋書の記載に準じます。ただ、この場合は原著書が日本語なので、日本語のわからない読者のために皆さんが自分で英語に翻訳する必要があります。

例：2001年に東京の明石書店から出版された河村貞枝著『イギリス近代フェミニズム運動の歴史像』を英文ペーパー作成のために読んで、参考文献として記載したい場合は、次のようにすればいいでしょう。

Kawamura, Sadae. *Igirisu Kindai Feminizumu-Undo no Rekishizo [A Study of Modern English Feminism]*. Akashi Shoten, 2001.

II. 電子出版物に関する記載

電子出版物の基本書式は、以下のとおりです。ただし、ウェブサイトには掲載されていない情報もあります。その場合、未掲載部分は記載しません。

書式：著者名. 書名. または“文書名.” 出版された版がある場合にはその出版情報. ウェブサイト全体のタイトル. 使われているバージョンまたは版. 当該サイトの主催機関名. 掲載情報が作成された年月日. URL. 利用者がそのサイトにアクセスした年月日.

➤ オンライン書籍

例：

Anderson, Sherwood. *Winesburg, Ohio*. Huebsch, 1919. *Google Book Search*, books.google.co.jp/books/about/Winesburg_Ohio.html?id=wZA6KEKKL48C&redir_esc=y. Accessed 25 Dec. 2016.

Irving, Washington. *Wolfert's Roost, and Other Papers, Now First Collected*. Putnum, 1855. *Wright American Fiction 1851-1875*, purl.dlib.indiana.edu/iudl/wright/VAC6870. Accessed 25 Dec. 2016.

(タイトルの中に作品のタイトルが含まれている場合、イタリック体をはずす。)

➤ 学術ジャーナル

例：

Streeby, Shelley. “American Sensations: Empire, Amnesia, and the US-Mexican War.” *American Literary History*, vol. 13, no. 1, Spring 2001, pp. 1-40. *Project Muse*, muse.jhu.edu/article/1918. Accessed 25 Dec. 2016.

➤ 参考図書や事典データベースの記事

例：

“William Shakespeare.” *Encyclopedia Britannica Online*, Encyclopedia Britannica, 2008, global.britannica.com/biography/William-Shakespeare. Accessed 25 Dec. 2016.

➤ 新聞記事

例：

Saner, Emine. “Phyllida Lloyd: A Director Who's Determined to Put Women Centre Stage.” *The Guardian*, 25 Nov. 2016, www.theguardian.com/stage/2016/nov/25/phyllida-lloyd-director-all-female-shakespeare-trilogy-mama-mia-iron-lady. Accessed 25 Dec. 2016.

Scott, A. O. “Flower Children Grown Up: Somber, Wiser and Still Talking Dirty.” Rev. of *The Barbarian Invasions*. Directed by Denys Arcand. *New York Times*, 17 Oct. 2003, www.nytimes.com/movie/review?res=9F01E6DF143EF934A25753C1A9659C8B6. Accessed 25 Dec. 2016.

➤ 個人のウェブサイトに掲載されている記事など

例：

Dyer, John. "John Cheever: Parody and the Suburban Aesthetic." xroads.virginia.edu/~ma95/dyer/contents.html. Accessed 25 Dec. 2016.

➤ オンライン・ビデオ

例：

Wesch, Mike. "Information R/evolution." *YouTube*, 12 Oct. 2007, youtu.be/-4CV05HyAbM. Accessed 25 Dec. 2016.

Works Cited

Allmendinger, David F., Jr. "The Construction of *The Confessions of Nat Turner*." Edited by Kenneth S. Greenberg. *Nat Turner: A Slave Rebellion in History and Memory*. Oxford UP, 2003, pp. 24-42.

Andrews, William L. *To Tell a Free Story: The First Century of Afro-American Autobiography, 1760-1865*. U of Illinois P, 1988.

Foster, Sharon E. *The Resurrection of Nat Turner, Part 1 Witnesses*. Howard, 2011.

---. *The Resurrection of Nat Turner Part 2 Testimony*. Howard, 2012.

---. "The Truth about Nat Turner: On the 180th Anniversary of the Slave Revolt, This Author Says His "Confessions" Were a Lie." *The Root*, Slate Group, 23 Aug. 2011, www.theroot.com/articles/politics/2011/08/nat_turner_rebellion_factchecking_his_confessions/. Accessed 25 Dec. 2016.

Gray, Thomas R. *The Confessions of Nat Turner. 1831. William Styron's Nat Turner*, edited by John Henrick Clarke. Greenwood, 1968, pp. 92-118.

Greenberg, Kenneth S., editor. *The Confessions of Nat Turner and Related Documents*. Bedford, 1996.

Gross, Seymour L., and Eileen Bender. "History, Politics and Literature: The Myth of Nat Turner." *American Quarterly*, vol. 23, no. 4, 1971, pp. 487-518.

Higginson, Thomas Wentworth. "Nat Turner Insurrection." *The Nat Turner Rebellion: The Historical Event and the Modern Controversy*, edited by John B. Duff and Peter M. Mitchell. Harper, 1971, pp. 52-65.

Kotani, Koji. "Rekishu Kijutsu to Esunishiti: Uiriamu Sutairon no *Natto Tana no Kokuhaku wo Megutte*." ("Historical Narration and Ethnicity in William Styron's *The Confessions of Nat Turner*.") *Gengo-Bunka Ronkyu (Studies in Languages and Cultures)*, vol. 18, 2003, pp. 53-61.

Styron, William. "Nat Turner Revisited." *The Confessions of Nat Turner*. 1967. Vintage, 1992, pp. 432-55.

Thelwell, Mike. "Back With the Wind: Mr. Styron and the Reverend Turner." *William Styron's Nat Turner: Ten Black Writers Respond*. Edited by John Henrik Clarke. Greenwood, 1968, pp. 79-91.

3. APA方式に基づく記載法（和文と英文）

以下はAPA方式に従った文献リストのサンプルです。いままでみてきたMLA方式と大きく異なるのは、出版年が著者名の直後に括弧書きで提示される点と、欧米人の著者のファーストネームがイニシャルとなる点です。その他にも細かな違いがありますので注意して下さい。

和文ペーパーにおける和書の記載方法（APA方式に準拠）

参考文献

出口保夫. (1982). 「住居と建造物」(安東伸介・小池滋・出口保夫・船戸英夫編)『イギリスの生活と文化事典』(pp. 117-151). 研究社.

(事典の中の記事・論文：ページ番号の直前にpp.をつける。)

江原由美子. (1989). 「日常生活とジェンダー」(江原由美子・山田正弘編)『ジェンダーの社会学』(pp. 1-54). 新曜社.

(論文集の中の記事・論文)

後藤和彦. (2005). 『敗北と文学—アメリカ南部と近代日本』松柏社.

(単行本)

ジバルディ, J. (2005). 『MLA英語論文の手引き』(第6版)(樋口昌幸訳)北星堂.

(翻訳本)

川北稔・指昭博(編). (2000). 『周縁からのまなざし—もうひとつのイギリス近代』山川出版社.

(二人の編者による単行本)

山田昌弘. (1987). 「近代家族形成における情緒の二つの意味」『現代社会学』24, 110-132.

(ジャーナルに掲載の記事)

英文ペーパーにおける記載法（APA方式）

以下に英文ペーパーでどのように参考文献を記載するか、例を挙げて概説します。

I. 印刷出版物に関する記載

➤ 単行本

書式：著者名. (年号). 書名. 出版社

例：

Calfee, R. C., & Valencia, R. R. (1991). *APA guide to preparing manuscripts for journal publication*. American Psychological Association.

➤ 雑誌論文

書式：著者名. (年号). 論文名. 雑誌名, 巻, 掲載頁.

例：

Berndt, T. J. (2002). Friendship quality and social development. *Current Directions in Psychological Science*, 11, 7–10.

Berndt, T. J., & Keefe, K. (1995). Friends' influence on adolescents' adjustment to school. *Child Development*, 66, 1312–1329.

➤ 単行本や論文集の中の一論文

書式：著者名. (年号). 論文名. In 編者名 (Ed.), 書名 (pp. 掲載頁). 出版社.

例：

O'Neil, J. M., & Egan, J. (1992). Men's and women's gender role journeys: Metaphor for healing, transition, and transformation. In B. R. Wainrib (Ed.), *Gender issues across the life cycle* (pp. 107–123). Springer.

➤ 編者によって編集された単行本

書式：編者名 (Ed.). (年号). 書名. 出版社.

例：

Duncan, G. J., & Brooks-Gunn, J. (Eds.). (1997). *Consequences of growing up poor*. Russell Sage Foundation.

➤ 百科辞典の記事や辞書の項目

書式：著者名. (年号). 記事の見出し. In 編者名. (Ed.), 書名. (pp. xxx-xxx). 出版社名.

例：

Taylor, J.R. (2009). Cognitive semantics. In K. Allan. (Ed.), *Concise encyclopedia of semantics* (pp. 73–86). Elsevier.

➤ 新聞記事

書式：著者. (年号, 月 日). 記事タイトル. 新聞名, p. xx.

例：

Markoff, J. (1998, June 21). The voice on the phone is not human, but it's helpful. *New York Times*, p. F1.

➤ 翻訳本

書式：著者. (年号). 書名. (訳者, Trans.). 出版社名.

例：

Laplace, P. S. (1951). *A philosophical essay on probabilities*. (F. W. Truscott & F. L. Emory, Trans.). Dover.

➤ 和書

書式：著者. (年号). 和書名 [英語の書名]. 出版社名.

例：

Kawamura, S. (2001). *Igirisu kindai feminizumu-undo no rekishizo* [A study of modern English feminism]. Akashi Shoten.

II. 電子出版物に関する記載

電子出版物の基本書式は、以下のとおりです。ただし、ウェブサイトには掲載されていない情報もあります。その場合、未掲載部分は記載しません。

➤ オンライン書籍

書式：著者名. (年号). 書名. [版]. Retrieved from アドレス

例：

Long, M. (2015). *Second language acquisition and task-based language teaching*. [Kindle version]. Retrieved from <http://www.amazon.com>

(電子版の場合は書名の後に[]で版を、Retrieved from を付けてサイトを示す)

➤ 学術ジャーナル

書式：著者名. (年号). 記事タイトル. 学術ジャーナル名. 巻, ページ. doi

例：

DeKeyser, R.M. (2013). Age effects in second language learning: Stepping stones toward better understanding. *Language Learning*, 63, 52–67. doi:10.1111/j.1467-9922.2012.00737.x

Gass, S., Svetics, I., & Lemelin, S. (2003). Differential effects of attention. *Language Learning*, 53, 497–545. doi:10.1111/1467-9922.00233

(オンライン上で入手できる学術ジャーナルの場合はdoi番号を付ける)

➤ オンライン定期刊行物の論文 (doi番号のないもの)

書式：著者名. (年号). 記事タイトル. 定期刊行物名. 巻, ページ. Retrieved from アドレス

例：

Bernstein, M. (2002). 10 tips on writing the living Web. *A List Apart: For People Who Make Websites*, 149. Retrieved from <http://www.alistapart.com/articles/writeliving>

➤ 参考図書や事典データベースの記事

書式：著者名. (年号). 記事. In 編者代表. (Ed.), 書名. Retrieved from アドレス

例：

Rosenthal, S.B. (2013). Pragmatism. In J.E. Safra. (Ed.), *Encyclopedia Britannica*. Retrieved from <http://www.britannica.com/>

➤ **新聞記事**

書式：記事名. (年号, 月). *新聞名*. Retrieved from サイト

例：

US economy posts strongest growth in 11 years (2014, December). *The Guardian*.

Retrieved from <http://www.theguardian.com/business/2014/dec/23/us-economy-strongest-growth-third-quarter-gdp>

➤ **個人のウェブサイトに掲載されている記事など**

書式：著者名. (年号, 月 日). 記事のタイトル. [Web log post]. Retrieved from アドレス

例：

Dyer, J. (2013, March 5). John Cheever: Parody and the suburban aesthetic [Web log

post]. Retrieved from <http://xroads.virginia.edu/~ma95/dyer/contents.html>

➤ **CD-ROMによる出版物**

書式：著者名. (年号). タイトル名. [媒体]. 出版社名. Available from アドレス例：

Oxford University Press (Producer). (2009). *The Oxford English dictionary. 2nd.ed.* [CD-ROM]. Oxford University Press.

➤ **オンライン・ビデオ**

書式：著者名. (年号). タイトル名. [媒体]. Available from アドレス

例：

Wesch, M. (Producer). (2007). *Information R/evolution*. [YouTube]. Available from

<https://www.youtube.com/watch?v=-4CV05HyAbM>

➤ **データベース**

書式：著者名. (年号). タイトル名. [媒体]. Retrieved from アドレス

例：

Davies, M. (2007). *TIME magazine corpus: 100 million words, 1920s-2000s*. [Database].

Retrieved from <http://corpus.byu.edu/time/>

References

- Berndt, T. J. (2002). Friendship quality and social development. *Current Directions in Psychological Science, 11*, 7–10.
- Berndt, T. J., & Keefe, K. (1995). Friends' influence on adolescents' adjustment to school. *Child Development, 66*, 1312–1329.
- Bernstein, M. (2002). 10 tips on writing the living Web. *A List Apart: For People Who Make Websites, 149*. Retrieved from <http://www.alistapart.com/articles/writeliving>.
- Calfee, R. C., & Valencia, R. R. (1991). *APA guide to preparing manuscripts for journal publication*. American Psychological Association.
- Duncan, G. J., & Brooks-Gunn, J. (Eds.). (1997). *Consequences of growing up poor*. Russell Sage Foundation.
- Gass, S., Svetics, I., & Lemelin, S. (2003). Differential effects of attention. *Language Learning, 53*, 497–545. doi:10.1111/1467-9922.00233
- Helfer, M. E., Keme, R. S., & Drugman, R. D. (1997). *The battered child* (5th ed.). University of Chicago Press.
- Kawamura, S. (2001). *Igirisu kindai feminizumu-undo no rekishizo* [A study of modern English feminism]. Akashi Shoten.
- Laplace, P. S. (1951). *A philosophical essay on probabilities*. (F. W. Truscott & F. L. Emory, Trans.). Dover.
- Long, M. (2015). *Second language acquisition and task-based language teaching*. [Kindle version]. Retrieved from <http://www.amazon.com>
- Markoff, J. (1998, June 21). The voice on the phone is not human, but it's helpful. *New York Times*, p. F1.
- O'Neil, J. M., & Egan, J. (1992). Men's and women's gender role journeys: Metaphor for healing, transition, and transformation. In B. R. Wainrib (Ed.), *Gender issues across the life cycle* (pp. 107–123). Springer.
- Rosenthal, S. B. (2013). Pragmatism. In J.E. Safra. (Ed.), *Encyclopedia Britannica*. Retrieved from <http://www.britannica.com/>
- Taylor, J.R. (2009). Cognitive semantics. In K. Allan. (Ed.), *Concise encyclopedia of semantics* (pp. 73–86). Elsevier.

Attitude to Marriage in Shakespeare's Plays

A Thesis
Submitted to
the Department of English
Doshisha University

In Partial Fulfillment
of the Requirements for the Degree
of
Bachelor of Arts

Kyoko Tanabe
(No. 1102*****)
(Adviser: Professor Taro Imadegawa)

December 20**

Abstract

Title: Subtitle (option)

Write an abstract in English (approximately 500 words).

CONTENTS

Abstract.....	i
1. Introduction.....	1
2. Marriage in Shakespeare’s England.....	4
3. Marriage in <i>As You Like It</i>	11
4. Marriage in <i>Hamlet</i>	18
5. Conclusion.....	25
Notes.....	28
Works Cited.....	30

卒業論文

テミル条件文にみられる構文変化の過程
——語用論的強化と階層的構文
ネットワークに基づく言語変化——

同志社大学文学部英文学科
1102***** 田辺京子
(指導教員 今出川太郎)

20**年12月

梗概 (Abstract)

Title: Subtitle (option)

Write an abstract in English (approximately 500 words).

目次

梗概(abstract).....	i
1. はじめに.....	1
2. 構文変化をめぐる問題	
2.1 言語変化のメカニズム.....	3
2.2 構文ネットワークと言語変化.....	5
3. テミル条件文の問題と先行研究.....	7
4. 接続詞化と構造ネットワーク	
4.1 テミル条件文の構文としての成立.....	9
4.2 非意志的テミルの成立.....	10
4.3 接続詞化と構文ネットワーク.....	13
5. 結語.....	16
注.....	18
参考文献.....	20

卒業論文 計画書 (20**年 1月*日提出) ← 3年次 秋学期末に提出 時期は要確認	
学生 ID	氏名
卒業論文タイトル (仮題でも可)	
内容 (何について、何を論じ、何を明らかにしたいのか、なるべく具体的に記すこと。400 字程度の和文、あるいは 200words 程度の英文で書くこと。裏面使用可。)	
Junior Seminar 担当者名	

卒業論文特殊研究希望調査票 (20**年 11月*日提出) ← 3年次 11月に調査	
学生 ID	氏名
卒業論文タイトル (英語 仮題でも可)	
内容 (何について、何を論じ、何を明らかにしたいのか、なるべく具体的に記すこと。400字程度の和文、あるいは 200words 程度の英文で書くこと。裏面使用可。)	
Junior Seminar 担当者名	

卒業論文 執筆内容報告書・参考文献リスト (20**年7月*日提出) 4年次春学期末

学生 ID

氏名

卒業論文タイトル

卒業論文要旨 (序章における論題の提示を含む)

Section 1 / 具体的内容①

Section 2 / 具体的内容②

Section 3/具体的内容③

結論

参考文献リスト

卒業論文 梗概

(20**年10月*日提出) ← 4年次 秋学期 10月に提出

学生 ID :

氏名 :

Senior Seminar 担当者名 :

卒業論文タイトル :

梗概 :

- * 卒業論文の梗概を、和文 800 字程度 または 英文 400words 程度で記すこと。(裏面使用可)
- * 最後に総字数を記すこと。